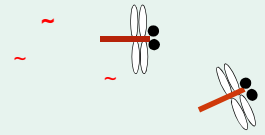


昆虫類調査法



昆虫類の調査は、当社では主に次の3つの調査方法を用いています。

任意採集

ベイトトラップ

ライトトラップ

このうち、今回は 任意採集についてとりあげます。

任意採集にはいろいろな方法がありますが、主に「見つけ採り法」「スウィーピング法」「ピーティング法」の3つの手法を行なっています。以下にこれらの方法について詳しく説明します。

見つけ採り法

この方法は、樹林、草地、耕作地、河川や溜め池といった昆虫類の生息していそうな環境を任意に歩きまわり、目撃した昆虫類を採集する方法です。ただし、目視による同定が可能な昆虫は、目視確認しフィールドノートに記載します。この方法ではトンボやチョウ、甲虫、ハチをはじめとする昆虫類全般、セミの抜け殻や蛾の繭といった生活痕が採集・確認されます。

スウィーピング法

この方法は、草むらや灌木に隠れている不特定多数の昆虫類を採集する時に使います。移動しながら草や木の比較的表面部分を捕虫網で左右垂直に振り抜く動作を数回繰り返し、網の中に入った様々な昆虫類を採集します。林縁部の茂みや草地、放棄水田、畦道などで行うことが多く、小型のハチやハムシ、カメムシといった昆虫類を採集するのに効果的です。スウィープ (sweep) とは「手や棒などをさっと振

採集道具について

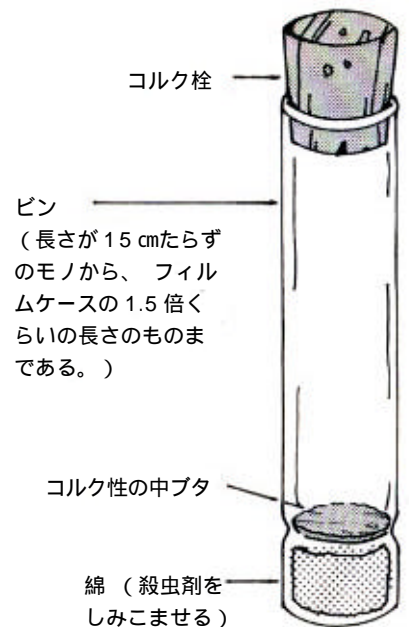
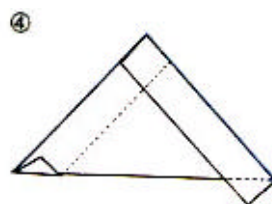
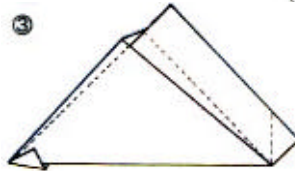
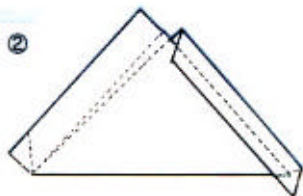
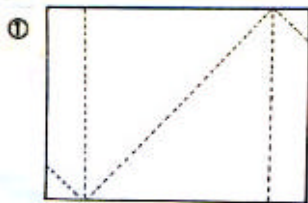
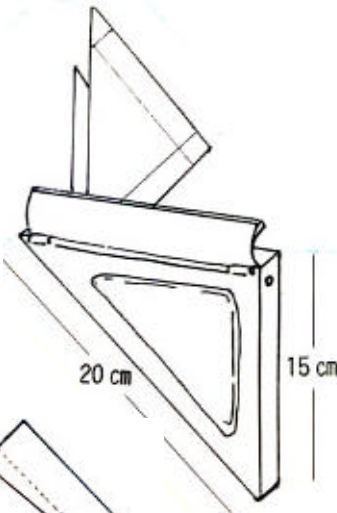
任意採集時に携帯する道具類について、主要なモノを以下に解説する。また、一般的なでないモノについては図に示した。

捕虫網：いわゆる網。

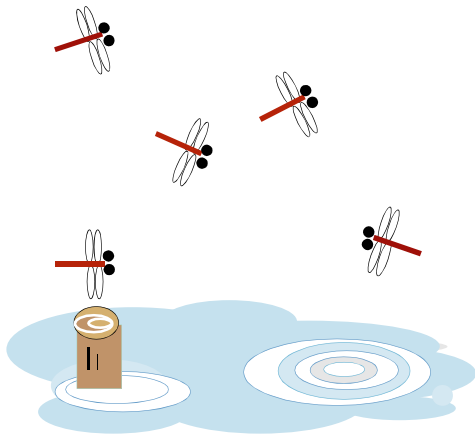
傘：ピーティング法で枝からたたき落とした虫を受けるのに用いる。

ピンセット：素手でさわれない虫を持ったりするのに使う。三角ケースの中に入れておくことが多い。

三角紙及び三角ケース：図のようにトンボやチョウをたたんで三角紙にしまう。この三角紙をさらに三角ケースにしまう。三角紙の材質はパラフィン紙である。



毒ビン：密閉性の高いビンの中に酢酸エチル等の殺虫剤をいれて、その中に虫をいれて捕殺する。



根堀：朽ち木を崩して中にある昆虫類を採集するために用いる。
(実寸：30 cm くらいのものが多い。)



る」という意味ですが、これを拡大解釈して、網を振って採集する方法をスウィーピング法と呼んでいます。しかし、この方法、気合いを入れすぎると網が壊れてしまったり、棘のある植物に引っかけて網に穴をあけたりと、補虫網にとっては迷惑な方法であること間違いなし。予備の網は必需品です。

ビーティング法

これは木の枝や藪を叩いて昆虫を落下させ、落ちてきた虫をネットや傘などで受けて採集する方法で、直接目で見つけにくい小型の昆虫類や枝葉に隠れて見つけにくい昆虫類を採集するのに威力を発揮します。樹林の日溜まりや、林縁のクズやツタの絡まった低い枝が狙い目ですが、当たり！な場所に

はアシナガバチの巣もよくありまして・・・やってみようと思う方はくれぐれもハチの巣にはお気を付け下さい。この方法は主に、樹上性の甲虫等を採集するのに効果的です。ビーティング (beating) とは「続けざまに打つ、叩く」という意味で、文字どおり昆虫を枝からたたき落として採集する方法なのでこう呼ばれています。

上記のような調査方法の他に、夜間に行うホタル調査、スズムシやクツワムシ、コオロギ等を鳴き声で確認する鳴く虫調査、冬にはオオムラサキの越冬幼虫等を探す越冬昆虫調査などを行います。

以上が大まかな任意採集の説明ですが、どの方法を行うにしても、効果的な季節や場所、時間帯があります。これを見極めるには経験を積み、昆虫の特性を良く知る必要があります。

(本社自然環境調査室・林和美)



(原案 本社自然環境調査室伊藤透 / イラスト 飯塚要)